

学校放送番組を活用し、学年全体で取り組むいじめ防止～学年道徳としての取り組み～

京都市立西京高等学校附属中学校 教諭 久保 泰雄

中学校1年 特別活動・道徳 いじめをノックアウト

番組の特徴

「“いじめ”とは何か?」「“いじめ”を減らすためにはどうすればよいか」を考え、“いじめ”が起きても「みんなで解決できるクラスづくり」を目指し、MCの高橋みなみさんが全国の小中学生たちのナマの声をもとに、“いじめ”をどうしたら減らせるかを考える番組です。

研究の概要

“いじめ”については、学校全体あるいは学年全体で共通理解し、取り組まなければならない問題である。そこで、本研究では、“いじめ”について、学級の枠を超えて、学年全体での学びと捉え、さらに、より効果的なものとするため、学年道徳として位置付け実践を行う。また、本研究の道徳授業では、学校放送番組を活用する際、番組を学年全員で視聴し、様々なトラブルについての対応を共通理解し、“いじめのない集団づくり”を目指した。

授業デザイン（単元構想+中心の1単位授業時間）

主題名：学級や学校の生活づくり

目標：学級や学校における生活上の諸問題の解決

振り返り

前時に視聴した、「その“いじり”，大丈夫?」のまとめと振り返りを行う。また、各自で記入した、いじめを少しでも減らすための“行動宣言”を紹介し、学年全体で交流する。

導入

中学校に入学し、無料通信アプリ（以下LINE）を利用する生徒は増える。そのため、LINEを『利用している』『利用していない』に関わらず、トラブルに関する知識を習得しておくことで、トラブルを回避できることを考える。

課題把握

学習課題「いじめをなくすためには～客観的な視点で考えるためには～」

番組視聴

『いじめをノックアウト』
「LINEのトラブルをさけるには?」

自力解決

視聴途中に、“4つの返信の結末がどうなるのか”を個人で予想し、別紙の資料に記入する。

協働解決

個人で予想したことを学年全体で発表し、交流する。その後、番組の続きを視聴する。

まとめ

最後に“みなみの考え”を視聴。まとめを行う。



番組や関連動画クリップの活用意図

“いじめ”が他人事ではなく、身近なことを認識するための番組視聴。

番組は、身近な中学生の間で起きているトラブルを取り上げているため、身近な事象として捉え、理解を深めることで、トラブルに発展しないためにはどうすればよいかを考えるきっかけにする。

番組のWebページの取組への参加。

番組の活用とともに、授業のまとめとして、本時の振り返りを学級通信や学年通信で取り上げる。さらに、番組のWebページを活用し「あなたのノックアウトパンチ」や「100万人の行動宣言」に参加し、いつでもWebページにアクセスし、振り返りや自分の考えたことが確認できるようにする。

思考の可視化にかかわる教師の工夫

前時のまとめや振り返りを活用することで、授業のつながりを意識させる。

道徳授業では、毎回の授業において、指導の内容が異なることが多く、各時間のつながりを意識することが難しい。本研究では、つながりのある授業の前時のまとめや振り返り・生徒感想文を紹介したり、交流したりすることで、少し忘れていた内容を思い出させる。さらに、本時の授業との関連を意識させることで、授業の効果をより高めることができる。と考える。

いじめをノックアウト (LINEトラブルをさけるには?)

1. 友達から、LINEでメッセージが来た。内容は「お前、最近どう?」という内容だった。友達からメッセージが来たのは久しぶりで、嬉しく思った。返信した。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。

2. LINEで友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。

3. LINEで友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。

4. LINEで友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。友達から「お前、最近どう?」という内容のメッセージが来た。

生き生きと学ぶ子どもの姿

生徒の振り返り・自己評価から

番組であったように、4つの返信は「正解でもあって、不正解でもある」から、自分を守ったり、相手を考えすぎたりしないで、“グループに入っていない人から見ても”ということをしっかり考えたいと思いました。正しい使い方といっても、「自分にとって都合がいい考え方しか思いつかないような人」にならずに、今までを見直して、正しい使い方をしていきたいと思いました。さらに、客観的に考えるということ意識したいと思いました。

同僚の評価

トラブルが起こったとき、生徒の多くは、なかなか自分の失敗を認めることができず、言い訳をしてその場をしのぐ傾向があります。さらに、ネット上でのトラブルは、言い訳も巧妙になってくるのが予想されるため、今回の授業で、それらの言動を“客観的”に見たときにどう思うのかを考えさせることができたことにより、今後のトラブルを少しでも予防することにつながっていくのだと思います。

実践を終えて

本実践を行った学年（中学1年）は、これまで、スマートフォンや無料通信アプリ（LINE）に関するトラブルは確認されず、実際にトラブルや被害を受けたことの報告も現状ではない。さらに、学校生活全般においても、いくつかのトラブルはあるものの、大きなトラブルに発展することにはつながっていない。本番組を視聴することにより、生徒には、心の揺さぶりがあったものとする。今後も、積極的に本番組を活用し、“いじめ”のない集団作りを目指したいと思う。